

生活介護課 グループ：	主題	「ねえーちょっと見てください」		
	副題	排泄への不安軽減		
研究期間	事業所	特別養護老人ホーム シャローム東久留米		
発表者：川田 麻美				
共同研究者：川田 麻美 保谷 邦彦				
電話	042-467-1561	メール		
FAX	042-467-3040	URL	http://www.shalom-tokyo.net/	

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人三育ライフが運営し、平成4年5月1日に東京都東久留米市に開設。特別養護老人ホームは、長期入所82床と短期入所10床の合計92床の事業所であり、同じ建物内には、通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所の4部門がある。他に市内に通所介護、地域包括支援センター、グループホームの3部門と杉並区にグループホーム1部門の事業を展開している。
------------------------------	--

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>A氏 87歳 女性 介護度4 平成20年シャローム東久留米に入所される。</p> <p>昭和57年に直腸癌手術後、ストーマ（人工肛門）の造設手術を行う。平成22年に癒着性イレウス（腸閉塞）手術される。</p> <p>移動：車椅子。前傾姿勢にて足こぎをされ自操される。</p> <p>身体状況：円背、腹部に変形が見られる。</p> <p>生活状況：トイレ頻繁、気になり出すと何度もトイレに行かれる。腹部周辺にただれや湿疹あり。</p> <p>上記のことにより、本人の不安・不衛生・皮膚トラブルの問題が見られる。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する効果》</p> <p>研究の目標：・本人がストーマを気にされている為、不安になる。そのことへの不安の軽減。</p> <p>・便失禁の回数の減少とともに腹部周りのかゆみの軽減。</p> <p>・ストーマの知識・技術向上。</p>

《具体的な取り組みの内容》

- ① ストーマはワンピースタイプの物を使用していた。H23にストーマへの検討を経てツーピースタイプに変更する。
- ② 本人に適しているストーマか、ストーマの発注先に連絡を取り、ストーマのタイプ別の把握やストーマの装着技術等の検討をする。
- ③ 便失禁の（ストーマ漏れ）状況観察、観察ノート作製。
- ④ 食事形態の変更（粥・荒みじん→粥・刻み）それに伴う便の形状観察。
- ⑤ ストーマ装着の研修。

《取り組みの結果と評価》

- ① 便漏れの頻度は軽減された。
- ② 専門業者と話し合いをしてストーマのタイプ別特徴や用途の説明を受ける。
- ③ 他職員や他部署との共通認識が図れた。
- ④ 水様便から軟便に形状の変化が見られた。が上義歯が無いためか咀嚼ができず、食べ残しや、不消化便が見られたため、粥・荒みじんに再度変更する。
- ⑤ シャローム東久留米の看護師による研修会を施行。ストーマが身近なものに感じられ、理解ができた。

《まとめ》

今回この研究に取り組むに当たりご利用者の不安の軽減、衛生的、皮膚トラブル解消、業務軽減等、目の前の問題解決に着手してその改善にチームケアで臨めたことが成果であると思います。今後この成果を糧に様々な問題に取り組み、チーム一丸となってより良いケアの提供に努めたいと思います。

《提案と発信》

【メモ欄】

《参考文献》日本医科エキスパート
（株）ホリスター